

やまなか じふう
山中 時風(1738~1796)

俳人。庄屋。宇摩郡入野村(現、四国中央市土居町)出身。本名は与一右衛門貞候。山中関下・やまなかかんぼく錦鳥きんちょうの息子。11歳のとき松木淡々まつぎたんたんに入門。淡々は彼を「予州入野村之神童」と称し、拾一斎時風じゅういつさいじふうの号を授ける。句は、『四国紀行』、『放言十百韻』、『五十韻』、『蟋蟀卷』などにあるほか、巖島詣の紀行文も残している。父・関卜とともに風雅の地としての名所入野の顕彰に努め、多くの俳人を招き、入野の風流人として積極的に俳諧活動を続けた。

略歴

元文3(1738)年	宇摩郡入野村に生まれる。
寛延元(1748)年	松木淡々に入門
寛延3(1750)年	正木風状編『よよし簾』刊行。時風の句が収められる。
宝暦3(1753)年頃	岸夕静編『四国紀行』刊行。時風の句が収められる。
宝暦11(1761)年6月	巖島を参詣し、紀行文を記す。
11月2日	医王寺境内に淡々と芭蕉の句碑を建立
宝暦12(1762)年11月	浦川富天編『淡々一周忌追善句集』を筆写す。
寛政5(1793)年	八千坊駄岳編『蟋蟀卷』刊行。時風の句が収められる。
寛政7(1795)年	小林一茶、伊予来遊の折、時風を訪ねる。
寛政8(1796)年9月6日	59歳で永眠

〈関連図書〉

- ・星加宗一『入野の俳人 関卜とその子時風』 1960年
- ・星加宗一『愛媛文化双書23 伊予の俳諧』 愛媛文化双書刊行会 1975年
- ・愛媛県史編さん委員会『愛媛県史 文学』 愛媛県 1984年

〈ゆかりのある場所〉…(P299, 142)

〈関連施設〉…暁雨館

〒799-0712 愛媛県四国中央市土居町入野178番地1 TEL: 0896-28-6325